令和７年度　江戸川区立船堀第二小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○進んで学習する子ども ○思いやりのある子ども ○じょうぶな子ども		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○目標に向かい、子どもも職員も主体的に取り組み、子どもが育つ学校　地域の期待に応え、保護者が適わせてよかったと思える学校 ○確かな学力が身につき、豊かな心が育ち、健康でたくましい児童 ○「子どもが育つ学校」を念頭に置き、自らの職責を果たす教師
前年度までの本校の現状	成果	○校内研究を中心に授業改善を図ることができた。 ○多様な人々との関わりをもつ授業、多様性について考えさせることができた。 ○仕事の見通し・優先順位を立て、効率的・効果的に働き、時間外勤務時間を減らすことができた。	課題	○児童一人一人が自分自身の成長のために、能動的に学びを深めていく姿勢。 ○子どもの心のたくましさ、持続力・持久力、様々な問題を自分事としてとらえる力の育成。 ○若手教員・学校の核となるミドルリーダーの育成。 ○若手教員の指導力向上。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	**○共通理解・共通行動**	・教科担任制、習熟度別指導等で子どもが育つよう共通理解・共通行動	・教科担任制が充実し、子供の学びが深まった。教員肯定的評価９０％	A		A	・３～６学年では教科担任制を実施し、毎週水曜の教材研究日、日常的な相互参観を生かして、学年の壁を越えて授業改善を進めている。特に高学年では、習熟度別算数の児童の実態に合った指導改善を進めてきたことで、基礎学力の底上げにつながっている。	A	教科担任制、習熟度別指導を活用し、学年を育てていることは素晴らしい。	A	・学級や学年を越えて、組織的に授業改善を進める素地や枠組みができている。目的、内容、方法を共通理解し、共通行動を通して、授業改善とともに日常的な取組を充実させていく。	A	授業改善の枠組みが整備され、共通理解と共通行動が図られいてすばらしい。取組が日常的な授業実践にどのように定着し、児童の学びの質の向上につなげてほしい。	・学力向上PTを中心に、目的に照応した取組の改善を推進する。例えば、Studyweekの取組と家庭学習方針を通して、一層の家庭学習習慣の確立を目指すこと、総合的な学習の時間と読書科の「習得・活用」の関係を生かし、探究的な学びの充実を図ることなど。
	○主体的で深い学びに向けた授業改善の推進	・校内研究を核にすべての教員が授業改善に取り組み、具体的な改善を図る。	・授業改善に取り組んだ教員肯定的評価100％ ・授業が楽しい、よくわかる児童肯定的評価８０％	A		A	・国語科説明文の校内研究授業・協議や、夏季休業中の校内研究会を通して、全教職員で授業改善のポイントを熟議してきた。国語科だけでなく、他の教科等でも生かしながら、課題設定・見通しや学習過程を改善している。	A	校内研究を核に、授業改善に取り組めているので、これからも続けてほしい。若手の育成にこれからも尽力してほしい。	A	授業改善の取組が児童の学びにつながった。校内研究を核に、多様な児童の深い学びに向け、指導の重点を明確にした柔軟な授業改善を進めていく。	A	校内研究を核とした授業改善が児童の学びにつながっていることはすばらしい。学校全体へのさらなる広がりが期待される。	・教科の目標と児童の主体的な学びの相関が見えてきたことから、今年度に続き国語科説明的文章を切り口に、教科の枠に捉われない授業改善の推進を目指す。
	○読書科の更なる充実	・船二100選を作成しテーマ読書と共に読書の幅を広げる。読書科ノートの活用及び探求的学習の実施。	・本を読むことが好き。児童肯定的評価９０％ ・江戸川っ子読書科コンクールに全員参加	A		A	・「船二100選」を活用した読書活動により、児童は様々な本を手に取る機会が増え、読書の幅が広がった。 ・「校内調べる学習コンクール」を設定し、総合・読書科で探究的な学びを実施している。カリキュラム・マネジメントを通して子供の学びを充実させていきたい。	A	本を読む経験が足りない。しっかり本を読む経験をさせていきたい。	B	児童肯定的評価は、低学年８２％、中学年以上６７％。低学年で幅広く本に親しむことで、中学年以上では自分の興味関心に沿って充実した読書活動ができると考える。読書環境の改善、本を使った探究的な学びの充実を図る。	A	読書環境の整備とともに、本を活用した探究的な学びへと発展させる取組を継続していくことが望まれる。	・低学年では読書の幅を広げ、高学年では自分の興味に沿ってじっくりと読むといった段階的な目標設定を共通理解し、読書活動を充実させる。本にたくさん触れられるように、校舎内の環境を整備している。
体力の向上	**○個の「めあて」を明確にした授業実践**	・めあてを明確化した体を動かすことが楽しいと思える授業の実施	・体育の授業で達成感をもつことができた。できるようになってうれしかった。児童肯定的評価８５％	A		A	・めあてをもっては、低学年以外はしっかりめあてをもって行えている。低学年のめあてのもたせ方に難しさを感じているように思われる。 ・低学年を中心に授業観察を行って、めあてのもたせ方の不安を減らせるように声かけをしていく。	A	行事でも、目標をもちがんばっている姿が見られた。	A	・めあてをもっては、低学年も８０％がもてるようになった。できるようになったことが増えた児童は、全校で９０％近くが実感できている。体育に進んで取り組むことができる児童も、全校の９０％が感じられている。めあてのもち方や自分ができていることが増えている実感ができる工夫をしていきたい。	A	児童の多くがめあてをもち、できるようになったことを実感している点は大きな成果だと感じる。めあての質や振り返りの工夫を通して、より主体的な学びへと発展させてほしい。	・体育の授業後の振り返りカードをポートフォリオ型にして、年間を通して学習カードをファイリングすることで、自分の成長が振り返れるようにしていく。
	○学年・個に応じた体力向上の縦の取り組みの充実	・中休みの全員外遊び ・なわとびWEEK、朝の運動遊びの充実	・休み時間は進んで体を動かしている。児童肯定的評価８０％ ・子どもたちの体力向上につとめた。教員肯定的評価８０％	A		B	・中休みの全員遊びは、暑さによる出る出ないの判断が難しかったり、体調面の心配もあったりした。これからは外で遊びやすい気候になるので、全員が外遊びをするという意識をもてるように声かけをしていく。体力向上に向けた研修や実施案に活動例を記載しているが活用されていないので、呼びかけていく。	A	校庭で遊んでいる児童が多い。体力月間を、有効に活用してほしい。	B	・中休みの全員遊びは、継続的取り組みでよかった。気候の変化が大きかったのと、児童の体調面の心配もあったので、判断が難しいことがあった。昼休みになると、寒い日は外に出たがらない児童が増えている。月間の在り方も考えていく必要がある。教師の声かけも大切だが、運動の継続化を図っていきたい。	B	全員遊びの継続は児童の交流や健康面で意義がある。気候や体調面への配慮を踏まえつつ、無理のない形で運動習慣を継続できるよう、活動の工夫や月間計画の見直しを検討していくことが望まれる。	・運動遊び月間ではなく、年間を通して継続して行えるように帯で活動を行っていく。例えば、毎月第４週目は短なわ週間を行うなど。 ・体力テストの結果から、柔軟性が全校で低かったので、休み時間の前に「ストレッチタイム（仮）」を３分間行っていく。
	○健康教育・食育の推進	・毎日19日を「食育の日」とし、食と健康について指導する。 ・歯の健康について関心をもつ。	・食や自分の健康について関心が高まった児童肯定的評価90％ ・毎週水曜日全校にてフッ化物洗口の実施。	A		B	・毎週水曜日にフッ化物は行えている。健康に関して、生活習慣が家庭の事情による乱れや電子機器の夜遅くまでの使用による生活リズムの崩れが見られる。学級での指導は行っているが、家庭との連携が難しく感じる。	B	社会環境・家庭環境にも左右されるので、難しいと思われる。生活リズム改善について、学べる仕組みが欲しい。	B	・毎週水曜日にフッ化物は行えた。歯磨き週間も取り入れたり、保健便りを配るだけでなく担任と児童が内容を一緒に確認したりした成果もあり、健康に関して関心が高まった。・フッ化物洗口の実施が水曜日で、教員の研修日と重なることがあったので調整する。	B	健康に対する児童の関心を高める取組が実施されている点がすばらしい。	・次年度もフッ化物洗口を行っていく。毎週の曜日については、検討していく。 ・生活リズム改善に関する講話や資料などを、保健便りや学校公開などの場で伝えていく。
共生社会に向けた教育の推進	**○特別支援教育の充実**	・特別支援教室巡回指導の充実 ・特別支援教育の理解を深める研修の実施。	・月１回のやまぶきとの打ち合わせの実施。 ・やまぶきの理解啓発研修を実施し、通級への理解を図る。	A		A	・打合せ時間を確保し、確実に支援の方向性の共有をしている。 ・研修を通して、特別支援教育に対する理解を深めている。	A	特別支援の充実を更に図ってほしい。	A	・やまぶき、担任と月１回の定期的な情報共有を行い、児童の支援方法や課題を確認した。 ・校内の全教諭を対象に、特別支援教育の視点から研修を実施した。	A	担任と支援担当者による定期的な情報共有や校内研修の実施は、児童理解と支援の充実につながる取組でありすばらしい。今後も具体的な支援方法の共有を進めてほしい。	・次年度も、やまぶき学級・担任・専科教諭間での情報共有を密に行い、児童一人一人の実態に応じた継続的な支援を行う。
	○ユニバーサルデザインの視点での授業改善・環境整備	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援教育研修会の実施 ・主幹教諭による学習環境の確認　月１回	B		B	・ユニバーサルデザインの視点に立ち、すべての児童が学びやすい授業改善と環境整備に努めている。特に、特別支援教育に関する研修会を実施し、教員が共通理解を深めることで、校内全体の指導力の底上げにつなげている。	A	ユニバーサルデザインの視点について、進めてほしい。	B	・研修を通じて、教職員間で共通認識を形成し、日常の教育活動にユニバーサルデザインの考え方を反映させる体制を整えた。	B	研修を通して共通理解を形成し、教育活動にユニバーサルデザインの考え方を取り入れていてすばらしい。	・校内研修や日常の実践を通して、全教諭の特別支援に関する理解と指導力の向上を図る。
	○人権教育、道徳教育の推進	・様々な立場の人と交流する機会を全学年設定する。	・月１回の友達学級集会の実施 ・異学年交流の充実　教員肯定的評価８５％以上児童肯定的評価８５％以上	B		B	・月１回の友達学級集会を実施し、異学年交流や学級内での協働活動を通して、相互理解と信頼関係の構築を促している。	B	継続して実施し、ねらいを達成してほしい。	A	月１回の友達学級集会を開き、異学年の交流や協働活動を通して、子どもたちが互いを理解し合い、信頼関係を深める機会とした。	A	今後も活動内容を工夫し、交流の質を高めていってほしい。	・来年度は縦割り班編成とし、様々な学年の児童が関わる機会を増やすことで、交流を深め、相互理解の構築を促す。
不登校・いじめ対応の充実	**○不登校・いじめの未然防止並びに早期発見・早期対応**	・学期に１回、いじめアンケート・いじめ関連の道徳授業の実施、研修 ・L-Gateの実施 ・SCやSSW等の外部機関と連携を強化し、不登校児童を関係機関とつなぐ	・年間３回実施率１００％・いじめ解消率１００％、研修の実施 ・L－Gate全学年実施 ・つながりのない児童　０％	B		B	いじめアンケートは学期に１回実施予定。アンケートにより把握したいじめのうち継続見守りが必要な件数が２２件。適宜指導を重ねている。不登校児童のうちつながりのない児童は１名。家庭との連絡を続け、今後も関係機関につながるよう促す。	A	教師だけでなく、様々な機関と連携をし、教師の対応範囲を考えたい。	A	いじめアンケートにより把握したいじめ件数は、1学期2学期共に昨年度より増加傾向にあるが、これは軽微ないじめも見逃さないとして計上した結果である。継続見守りが必要な件数は減少しており、解消率100％が見込まれる。不登校児童はつながりのない児童0％に達している。	A	軽微ないじめも見逃さない姿勢で把握に努めている。今後も早期発見・早期対応の体制を継続してほしい。	次年度もいじめアンケートは年間3回実施する。児童にとって分かりにくい表記を変更する。 不登校対策については、今後も外部機関と積極的に連携し、つながりのない児童を作らないようにしていく。
	○不登校の増加、いじめの未然防止を図る	・月曜日の夕会で情報を共有し「いじめ・不登校委員会」を活用する。	・魅力ある学校「学校は楽しい」児童肯定的評価90％	A		A	夕会を活用し教員間の児童の情報共有を図っている。L－Gateの集計から、児童は学校に対し肯定的に捉えている。	A	L－GATEの活用について、工夫して取り組んでほしい。児童は、自分の様子を誰にも知られず教員に伝えられるシステムはすばらしい。	A	夕会の活用は継続できている。 L-Gateを活用し、気になる書き込みをした児童には、個別に電話や聞き取りをする等の活用ができた。	A	今後はICT活用の効果を整理し、教育活動全体への活用をさらに広げていくことが期待される。	夕会での情報共有、L-GATEの活用は継続する。
	○安全・安心の居場所づくり	・安全指導の徹底 ・けが、事故の防止と対応	・月１回の安全指導 ・即日対応の実施	A		A	安全指導を月１回確保できている。けが、事故については防止のための指導を重ねているが、起こってしまった際には適切な対応を即日行っている。	A	これからも、安全安心の学校づくりをしてほしい。	A	安全指導の確保はできている。 事故防止のための指導、起こってしまった際の対応も必要に応じてできている。	A	引き続き日常的な指導や危機管理意識の向上に努めていくことが望まれる。	安全指導の確保は継続。児童が、内容をより深く理解できるよう、児童が指導後に振り返りを記入できる安全ノートを作成する。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	**○学校ホームページの充実**	・学校ホームページの更新	・年間３００回以上更新 ・学校の様子がよく分かる。ホームページ等が充実している。保護者アンケート８０％	A		A	現在２１３回（１０月１４日）を実施した。情報担当より、7月にホームページアップ研修を実施させた。更に情報発信ができるようにする。	A	ホームページについて、昨年度より閲覧数が１万５千回増え、たくさんの方み見てもらえていている。これからも続けてほしい。	A	ホームページの更新回数を大幅に増やし、2学期末時点で、昨年度よりも、３０４７１回閲覧数を増やすことができた。（保護者アンケート子肯定的評価８２％）	A	ホームページ更新の充実により閲覧数が大きく増加している点は、学校の情報発信力向上として評価できる。今後も保護者や地域にとって分かりやすい情報提供を継続することを継続してほしい。	継続してホームページ更新をしていくことで、保護者・地域に情報発信を継続し、開かれた学校を作っていく。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教員へのアンケート実施	・児童・教員は学期ごとに、地域・保護者は2学期終わりに実施	A		A	児童には、児童アンケートを実施・教員には、学校関係者評価を全教員に実施させ、3PTで確認させ、期末に向け課題を考えさせた。	A	早めに計画を立てることにより、次年度への引継ぎにつなげることはとても大切である。	A	児童アンケート・教員アンケート・保護者アンケートを基に、学校評価を実施し、次年度計画に生かしていく。	A	評価結果を具体的な改善計画につなげ、次年度の教育活動へ反映させていくことが重要である。	アンケートの意見を真摯に受け止め、次年度の計画に生かしていく。
特色ある教育の展開	**○授業改善に向けた研究**	・各単元で身に付けたい力を明確にし、指導と評価の一体となる授業実践。	・授業が分かりやすい。児童肯定的評価８５％。授業改善に取り組んだ。教員肯定的評価１００％ ・夏にミニ発表会の実施 ・水曜日は教材研究日	B		A	・夏季休業中の校内研究会を実施した。全教職員で、1学期の総括と、解決していきたい課題を設定した。 ・子供たちの思いを出発点にして、身に付けさせたいカが育つように授業改善を推進している。	A	余裕のある時に、研修を実施することは働き方においてもよい。	A	研究授業・協議を節目として、授業改善に向けた課題を見出し、改善策を日常の授業に生かすことで、組織的に研究を推進した。経験年数の中専門性の違いを生かせる研究組織の在り方を考え、さらに改善していく。	か	教員の経験や専門性を生かした研究体制をさらに工夫し、学校全体の授業力向上につなげていってほしい。	・組織力強化・効率性向上のため、学習指導のレシピを蓄積し、共有化する。教材研究日は、教科担任・学年で時間を分け、各リーダーを配置し、単元のつながりや評価を基にした授業改善を推進する。
	○働き方改革の推進	・１か月の時間外在校時間を４５時間超える教員を０を目指す。 ・会議を精選し、水曜日午後を教材研究・分掌の活性化にあてる。	・時間外勤務４５時間以内　８５％ ・水曜日午後の業務内容改革。	B		B	時間外勤務４５時間以内の教員が、４・５月の８１％　７月・９月８９％まで増加してきている。 水曜日午後を教材研究だけの時間を意図的に設定できた。	B	時間外が減っていることは素晴らしいが、３０時間以内にできるように対応してほしい。	B	「時間外勤務削減に努めた（教員アンケート９３％）」となっており、意識は高まっている。４５時間以内の教員も、１０月を除き、８９％となっている。	B	業務の見直しや効率化を進め、継続的な働き方改革につなげていってほしい。	次年度についても、校務軽減制度を最大限活用し、水曜日の午後の活用を充実させることで、時間外勤務を減らしていく。